

平成 21 年 5 月 25 日現在

研究種目：若手研究（B）
 研究期間：2006 ～ 2008
 課題番号：18730404
 研究課題名（和文） 幼児期の発達における母親と保育者の役割の比較
 研究課題名（英文） The effects of mother-child and teacher-child relationships
 on young children's development
 研究代表者
 園田 菜摘 （SONODA NATSUMI）
 横浜国立大学・教育人間科学部・准教授
 研究者番号：00332544

研究成果の概要：本研究では、幼児期の対人関係の広がりには焦点を当て、特に保育者との対人関係が子どもの発達にどれくらい重要な影響を与えるのかについて、母親との比較を行うことにより明らかにすることを目的とする。その際、幼児期の発達に母親・保育者との関係性がどのような影響を与えるかを各年齢ごとに調べるために、幼稚園入園時から卒園時まで子どもの追跡調査を行い、母親・保育者との関係性と子どもの年齢に応じた社会的発達との間の関連について検討を行った。その結果、年少児時点では保育者との関係性が子どもの有能感の発達と有意に関連し、年中児時点では保育者との関係性が子どもの向社会的行動の中の共同作業、感情推論能力の中の他者の嫌悪の推論との間にそれぞれ有意な関連が示されたのに対して、母親との関係性と子どもの発達との間に有意な関連は見られなかった。また、年長児時点では、母親・保育者の関係性と子どもの発達特徴との間に有意な関連は見られなかった。これらのことから、子どもにとって新しい環境である幼稚園に入園した時点では、園の保育者との関係性が子どもの社会的発達に母親よりも重要な影響を与える可能性があることが示唆された。

交付額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2006 年度	900,000	0	900,000
2007 年度	700,000	0	700,000
2008 年度	700,000	210,000	910,000
年度			
年度			
総計	2,300,000	210,000	2,510,000

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：心理学・教育心理学

キーワード：親子関係

1. 研究開始当初の背景

幼児の発達に対する母親・保育者との関係性の影響は、これまで愛着研究の中でいくつか行われており、保育者との愛着の安定性は

幼児の仲間への社会的コンピテンスを予測するが、母親との愛着にはそのような関連が見られない(Howesら, 1994 など)、といった影響の違いが示唆されている。しかし、日本

においてはこのような母親・保育者との関係性の影響の違いについて、縦断的に比較、検討した研究はまだほとんど行われていないのが現状である。

2. 研究の目的

本研究では、幼児期の対人関係の広がりにも焦点を当て、特に保育者との対人関係が子どもの発達にどれくらい重要な影響を与えるのかについて、母親との比較を行うことにより明らかにすることを目的とする。その際、母親・保育者の影響の仕方は、子どもに対するそれぞれの働きかけの特徴だけでなく、子ども自身が母親・保育者をどのようにとらえているかによっても大きく異なる可能性があるため、愛着を含めた子どもの相手への「とらえ方」を中心に、検討を行うこととする。

具体的には、幼児を幼稚園入園時から卒園時まで縦断的に追跡することにより、年少児時点から年中児時点までの子どものそれぞれの年齢発達に応じた母親・保育者との関係性の影響の変化についても検討を行う。

3. 研究の方法

①2006年度

1年目である2006年度には、幼稚園に新しく入園した年少児24名とした。関係性の測定については、まずPAT (Picture of Attachment Test)を用いて、母親・保育者それぞれに対する子どもの愛着得点を算出した。また、CCP、CCT(Children's Cognition of Parents/Teachers)を用いて、子どもが認知する母親・保育者からの受容得点・拒否得点を算出した。さらに、子どもの発達特徴については、有能感・受容感尺度 (Harter & Pike, 1986) を参考に面接調査を行い、子どもの有能感得点、受容感得点を算出した。

②2007年度

2年目である2007年度には、前年度の研究対象だった子どもに新たに新入園児を加え、計55名の年中児を対象にした。母親・保育者との関係性の測定については、前年度と同様にPAT (Picture of Attachment Test)を用いて、母親・保育者それぞれに対する子どもの愛着得点を算出し、CCP、CCT (Children's Cognition of Parents/ Teacher s)を用いて、子どもが認知する母親・保育者からの受容得点・拒否得点を算出した。子どもの発達特徴については、絵カードを用いて、他者がどれくらい喜び・悲しみ・怒り・怖れ・嫌悪の感情を強く感じているかを推論させる感情推論能力について測定した。また、幼稚園での子どもの自由遊び場面を40分間観

察し、仲間に対する身体的援助・言語的援助・慰め・共同作業・分与・向社会的行動の拒否、といった向社会的行動の頻度を測定した。

③2008年度

3年目である2008年度には、年長になった対象児49名を追跡調査した。母親・保育者との関係性の測定については、これまでと同様にPAT (Picture of Attachment Test)を用いて、母親・保育者それぞれに対する子どもの愛着得点を算出し、CCP、CCT (Children's Cognition of Parents/ Teachers)を用いて、子どもが認知する母親・保育者からの受容得点・拒否得点を算出した。子どもの発達特徴については、絵カードを用いた面接調査から子どもの自己制御能力 (自己主張能力・自己抑制能力) を測定し、さらに担任保育者の評定から子どもの向社会的性の高さについても測定を行った。

4. 研究成果

①年少児時点での母親・保育者との関係性と子どもの発達との関連

子どもが年少児時点について、母親・保育者との関係性と子どもの発達特徴との間の関連を統計的に分析した結果、関係性の中でも子どもが保育者を拒否的と認知することが、子どもの有能感の高さと有意に関連した。母親との関係性については子どもの発達と有意な関連は見られなかった(表1参照)。

表1 年少児時点の関係性と子どもの発達との関連

	子どもの発達特徴	
	有能感	受容感
<u>愛着</u>		
母親	-.04	-.02
保育者	.19	.04
<u>受容的認知</u>		
母親	.22	-.01
保育者	.19	.15
<u>拒否的認知</u>		
母親	.09	.01
保育者	.41*	.18

* p<.05

②年中児時点での母親・保育者との関係性と子どもの発達との関連

子どもが年中児時点について、母親・保育者との関係性と子どもの発達特徴との間の関連を統計的に分析した結果、関係性の中でも保育者への愛着得点が低い子どもの方が高い子どもよりも、子どもの向社会的行動の中の共同作業が多いことが示された(表2参照)。

表 2 年中児の保育者への愛着得点の違いによる子どもの向社会的行動の差

	保育者への愛着得点		t 値
	高群	低群	
向社会的行動			
身体援助	1.96	2.70	-1.51
言語援助	3.84	3.70	.24
慰め	.36	.43	-.37
共同作業	.64	1.27	-2.05*
分与	2.32	2.90	-.96
拒否	.16	.13	.20

* p<.05

また、関係性の中でも保育者を受容的と認知していない子どもの方が受容的と認知している子どもよりも、感情推論能力の中の他者の嫌悪感情をより多く推論することが示された(表 3 参照)。

表 3 年中児の保育者への受容的認知の違いによる子どもの感情推論能力の差

	保育者への受容的認知		t 値
	高群	低群	
感情推論			
怖れ	2.60	2.43	.82
怒り	2.45	2.62	-.84
嫌悪	2.33	2.76	-2.32*
悲しみ	2.64	2.62	.09
喜び	2.94	2.81	1.01

* p<.05

母親との関係性については、子どもの発達と有意な関連は見られなかった。

③年長児時点での母親・保育者との関係性と子どもの発達との関連

子どもが年長児時点について、母親・保育者との関係性と子どもの発達特徴との間の関連を統計的に分析した結果、関係性の中でも子どもが保育者を拒否的と認知している方が、有意ではないが向社会的性が高い傾向があった(表 4 参照)。

表 4 年長児時点の関係性と子どもの向社会的性との関連

子どもの向社会的性	
愛着	
母親	-.14
保育者	.00
受容的認知	
母親	.16
保育者	-.01
拒否的認知	
母親	-.06
保育者	.28+

+ p<.10

また、母親との関係性について、母親への愛着得点の高さが、有意ではないが自己主張能力の低さ、自己抑制能力の高さとそれぞれ関連する傾向があった(表 5 参照)。

表 5 年長児時点の関係性と子どもの自己制御能力との関連

	子どもの自己制御能力	
	自己主張	自己抑制
愛着		
母親	-.27+	.29+
保育者	-.15	.14
受容的認知		
母親	-.18	-.10
保育者	-.18	-.09
拒否的認知		
母親	.13	.02
保育者	-.05	-.06

+ p<.10

以上の結果から、母親・保育者との関係性は子どもの発達によって異なる影響を及ぼす可能性があること、さらに、特に子どもが幼稚園に入園したばかりの年少児時点、年中児時点では、新しい環境への適応や発達を支える保育者の役割が母親よりも大きい可能性があることが示唆された。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[学会発表] (計 4 件)

①Natsumi Sonoda, Relationship between young children's perception of teachers and social development. The European Congress of Psychology. 2009.7.8. (発表予定) Oslo, Norway.

②Natsumi Sonoda, Effect of preschooler perceptions of mothers and teachers on social development. The Annual Convention of the American Psychological Association, 2008.8.24. Boston, U.S.A.

③Natsumi Sonoda, Relationship between self-regulation and prosocial behavior in Japanese preschool children. The Annual Convention of the American Psychological Association. 2007.8.18. San Francisco, U.S.A.

④Natsumi Sonoda, The effect of preschoolers' perceptions of mothers and teachers on their social understanding. The E

uropean Congress of Psychology. 2007.7.
4. Prague, Czech Republic.

6. 研究組織

(1) 研究代表者

園田 菜摘 (Natsumi Sonoda)

横浜国立大学・教育人間科学部・准教授

研究者番号：00332544

(2) 研究分担者

(3) 連携研究者